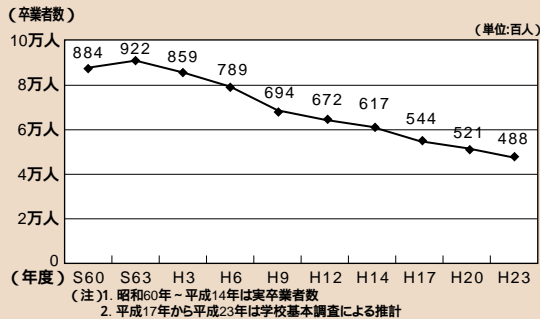
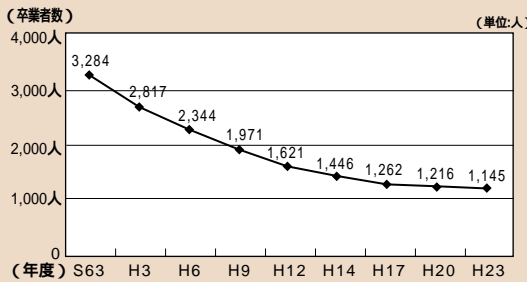


中学卒業生（見込み）の推移 北海道内



胆振第1学区



胆振第一学区全日制高校の間口・入学者数（平成14年度）

公立高等学校

学校名	間口	定員	入学者数
室蘭栄高校	6	240	240
室蘭清水丘高校	6	240	238
室蘭東高校	4	160	157
室蘭商業高校	4	160	163
室蘭工業高校	6	240	236
登別高校	3	120	97
登別南高校	4	160	157
合計	33	1,320	1,288

私立高等学校

学校名	定員	入学者数
室蘭大谷高校	260	124
聖ベネディクト女子高校	120	21
登別大谷高校	180	66
合計	560	211

中高一貫教育校の設立状況（H11～14年度設立）

全国（単位：校）

	公立	私立	国立
● 連携型	38	0	0
● 併設型	10	15	1
● 中等教育学校	2	5	2

北海道

- 連携型（公立）
上川中学校・上川高校（平成14年度設立）
- 併設型（私立、平成14年4月現在）
札幌市7校、函館市3校、江別市1校
学校教育法改正前からの実施を含む。

生徒数減少と避けられない公立高等学校の再編

社会の変化や生徒の多様な志向に対応した新しい中等教育への転換が求められる一方で、今、大きな問題となっているのが、少子化による生徒数の減少とこれに伴う高等学校の規模の適正化です。

道内と、登別市・室蘭市で構成される公立高等学校の通学区域『胆振第1学区』の状況を見てみましょう（『中学校卒業生（見込み）の推移』と『胆振第1学区全日制高等学校の間口・入学者数』参照）。

道内の中学校卒業生数は、昭和63年の9万2千222人をピークに減少を続けています。平成23年には4万

8千800人ほどになるものと予想されています。

『胆振第1学区』の状況を見ると、昭和63年の3千284人をピークに中学校卒業者の大幅な減少が続いており、平成14年から平成22年までの9年間で286人、間口数では約7間口の減少が見込まれています。

このような状況から、北海道教育委員会では、生徒の減少に沿って学級数を削減する間口減を行ってきましたが、この手法にも限界があり、公立高等学校の統廃合を進めざるを得ない、厳しい状況にあります。

市としても、このような生徒数の減少を踏まえ、将来にわたって、この地域での安定的で質の高い高等学校教育を確保するためには、統廃合による公立高等学校の再編は避けられないものと受け止めています。

1間口：1間口は40人として計算されます。

市の取り組み、多様な高校群の形成のために

しかし、公立高等学校の再編を進めるに当たっては、間口減や統合による単なる数合わせであってはなりません。中等教育をめぐるさまざまな課題を受け止め、胆振第1学区の中等教育の多様化を視野に入れた、より地域の中等教育に寄与できる取り組みでなくてはなりません。

市は、生徒数減少や公立高等学校の再編の動き、新しい中等教育の導入など、中等教育をめぐるさまざまな課題や動きを総合的に検討し、より地域の中等教育に寄与できる取り組みとして、中学校と高等学校を接続し、ゆとりの中で生徒一人ひとり